

インフルエンザとは・・・

インフルエンザは、原ウイルスの変化により10～15年おきに大流行、1～3年おきに小流行します。

インフルエンザにかかると39℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が強く、あわせて、のどの痛み、鼻汁などの症状も見られます。更に、気管支炎、肺炎などを併発し、重症化することが多いのもインフルエンザの特徴です。また、インフルエンザは流行が始まると、短期間に小児から高齢者まで膨大な数の人に感染が見られます。65歳以上の高齢者のインフルエンザ感染者では他の年代の感染者よりでは死亡率が増加します。



インフルエンザにかかったほとんどの方が軽症で回復しています。ただし、持病がある方々のなかには、治療の経過や管理の状況によりインフルエンザに感染すると重症化するリスクが高い方がいます。

重症化しやすい方

- ・慢性呼吸器疾患
- ・慢性心疾患
- ・糖尿病などの代謝性疾患
- ・腎機能障害
- ・ステロイド内服などによる免疫機能不全

次に該当する方々についても、インフルエンザが重症化することがあると報告されています。

妊婦・乳幼児・高齢者

インフルエンザ予防



うがい



手洗い



マスク



予防注射

特に持病がある方々は、手洗いの励行、うがい、人混みを避けるなどして感染しないように注意してください。また、周囲の方々も、感染させないように配慮するようにしましょう。

予防対策

～リハビリでは～



病院ではインフルエンザに感染することにより、重症化するリスクのある患者様が多く、対策を徹底しております。



手洗い・消毒

リハビリでは、必要に応じ、**マスク**、**手袋**、**ガウン**の着用を行い予防対策をとっています。